

真駒内駅前地区まちづくりに関するオープンハウス パネル④

まちづくりを支える取組み

景観・みどりについて

【基本的な考え方】

- 遠景** ◆周辺の山並みの見通しへの配慮
▷建物形状：山並みの見え方を尊重
- 中景** ◆真駒内らしい豊かなみどりと調和した景観の形成
▷街区内建物：積極的な敷地内緑化
- 近景** ◆品格ある街並みの形成
▷建物意匠：周辺の自然環境と調和
- ◆開放的でにぎわいを創出する駅前にあふさわしい顔づくり
▷交流広場：南区の玄関口にふさわしいにぎわいの創出と風格ある空間づくり
- ◆ゆとりある歩行者空間の確保
▷歩行者空間：交流広場と駅前通りの連続化による回遊性確保



【まちづくり計画での考え方の整理】



【今後の展開】

本市の景観条例に基づく「景観まちづくり指針の策定」に向けた検討を進めます。

地域主体のまちづくりについて

【基本的な考え方】

- ◆にぎわいの核となる「交流広場」（地域イベント・情報発信・チャレンジ支援等）
▷まちづくりに参画する民間事業者、地域住民が主体となった運営・維持管理
- ◆まずは、駅前地区の交流広場での取り組みや活動の定着を目指す
▷実績を積み重ねた上で、真駒内広域での様々な取組へ展開

【今後の展開】

「持続的なマネジメント組織」あり方や仕組みづくりに向けて検討を進めます。

【エリアマネジメント活動の様子】



イベントが開催されるにぎわい広場の事例
(札幌市 北3条広場)
管理者・運営者(札幌駅前通まちづくり会社)

まこまるを活用したイベントの様子(まこまちvol.2)
※写真は2016年に撮影されたものです。
運営者:まこまち実行委員会(地域企業等により組織)

スマートコミュニティの形成について

【基本的な考え方】

- 真駒内駅前地区におけるスマートコミュニティとは…
エネルギーを消費するだけでなく、つくり、蓄え、賢く使う取組を通して、より快適で環境にやさしい地域社会を構築する

【今後の展開】

再生可能エネルギーと省エネルギー技術の組みあわせにより真駒内駅前地区にあふさわしい「スマートコミュニティモデル地区の形成」を目指します。

【スマートコミュニティの形成イメージ】

駒岡清掃工場の更新による地域暖房への供給能力の向上により、化石燃料消費量が大幅に減少

◆地域熱供給の大幅な脱炭素化
◆災害時でも暖房や給湯の利用が可能
◆土地利用再編の機会を捉え、導入施設の拡大を目指す

地域熱供給のスケールアップ

駒岡清掃工場の更新
(2025年供用開始予定)

土地利用再編に伴う技術導入

- 建築物の省エネ化 (ZEB)
- エネルギー管理システム (EMS) の導入
- 再生可能エネルギー等の活用
- 歩行・滞留空間のロードヒーティング
- 分散型電源の設置
- 環境にやさしい電力の利用
- ICTを活用したサービス

各技術の導入に向け、事業実現性の検討や条件整理を進めさらなるCO₂排出量の削減を目指す

周辺地域(南区・真駒内地域)との関わりについて

南区全体と真駒内駅前地区 (地域・観光資源の情報発信等)

南区各地

- 自然や文化に触れる様々な地域資源が点在
- 二セコ・支笏湖・洞爺等の観光地が近接

魅力資源の発掘・創出・活用

情報発信・PRの強化

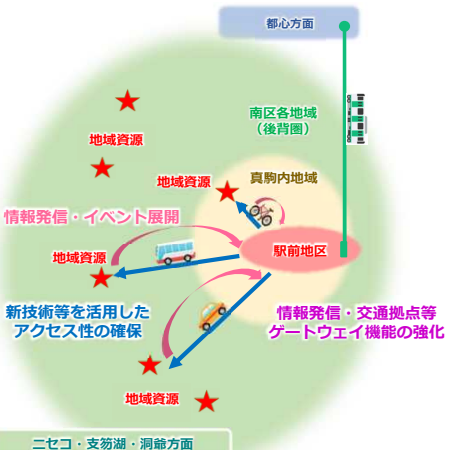
アクセスの強化

【当まちづくりの推進】

ICT等や交流広場を活用した多角的な情報発信

交通結節機能や民活機能との連携

南区の「ゲートウェイ機能」としての真駒内駅前の機能を強化
南区全体の交流人口の増加・活性化へ



南区全体と真駒内駅前地区 (生活利便機能の集積等)

現状の都市構造

- 自動車利用を前提としたロードサイド型
- 利便性の高い都心部への直通バス

予想される課題

生活利便性の低下
・人口減に伴う生活利便施設の衰退など

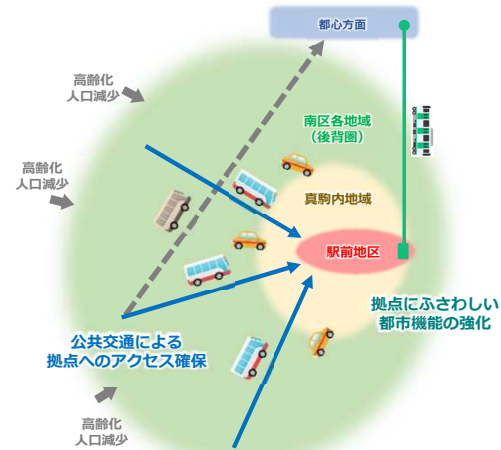
公共交通サービス水準の低下
・高齢化に伴うドライバー不足など

【当まちづくりの推進】

真駒内駅前地区拠点機能の充実・強化

公共交通による拠点へのアクセス確保

公共交通を利用し真駒内駅へアクセスすると
十分な都市機能を楽しむことができる都市構造へ



真駒内地域と真駒内駅前地区

現状の課題

- 商業地区の機能低下による生活利便の低下
- 駅とまちのつながりが希薄

住みづらいまち

地域価値の低下

人口減少・少子高齢化に伴う拍車

【当まちづくりの推進】

生活利便機能の強化

既存歩行者ネットワークに人の流れを繋ぐ

民間投資の誘引による
連鎖的な土地利用転換へ

